



第 **87** 期中間報告書

自:2019年4月1日 / 至:2019年9月30日

0テレホールディングス

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの日本テレビ放送網は、2018年度全日・ゴールデン・プライムで5年連続となる世帯視聴率三冠王を獲得しました。2019年度もゴールデン・プライムのレギュラー番組を中心に好調を維持し、上半期で6年連続の世帯視聴率三冠王を達成しています。7月期クールに放送した3つのドラマは多くの視聴者に支持され、とくに4月から2クールにわたって放送した「あなたの番です」は、若年層を中心にSNSなどでも大きな話題となり、最終回は世帯視聴率で19.4%（関東地区）をマークしました。その効果は、最終回のあとオリジナルストーリーを配信した動画配信事業のHuluにも及び、すでに200万人を超えた有料会員数のさらなる伸びにつながっています。

映画事業では超大作映画「キングダム」が興行収入57億円を超えるメガヒットとなり、9月末時点で2019年邦画実写1位を記録。イベントでは美術展「みんなのミュシャ」東京展で19万人を超える方にご来場いただきました。

当社グループの昨年度の連結決算は、売上高が過去最高の4,249億円で、放送収入は在京局で5年連続シェア1位、総資産、純資産も前年より増加しました。しかし、広告ビジネスとしての放送事業を取り巻く環境

は厳しさを増しています。5月に発表した新しい中期経営計画「日テレ eVOLUTION」は、まさにこうした経済環境に適応するため「テレビを超える」というスローガンを掲げており、今後、インターネット領域を成長させるとともに、知的財産活用事業、M&Aなどによる新規事業の創出などで事業基盤を確立して、総合コンテンツ企業No.1を目指してまいります。

当社は、こうした積極的な事業展開のための内部留保との調和を図りながら、継続的で安定的な株主還元を行うことを基本方針としており、当期の中間配当につきましては1株10円とさせていただくことといたしました。どうか株主の皆様には、当社の経営方針にご理解を賜り、引き続きご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

2019年(令和元年)11月



日本テレビホールディングス株式会社

代表取締役 会長 大久保 好男



代表取締役 社長 小杉 善信

CONTENTS 目次

表紙は花火IoT事業(P7)

株主の皆様へ	01
財務ハイライト	02
番組	03
報道・スポーツ	04
Hulu・新規事業・技術・デジタル動画広告	05

花火IoT事業・VTuber事業・日テレHR	07
ティップネス・BS日テレ・海外事業	08
イベント・映画	09
ボストン美術館展	10

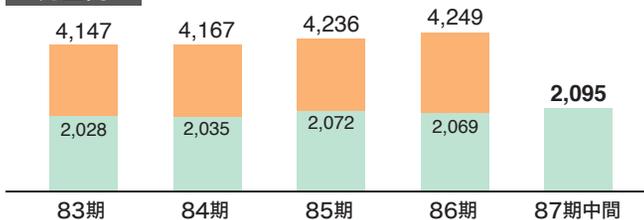
財務ハイライト

単位：億円

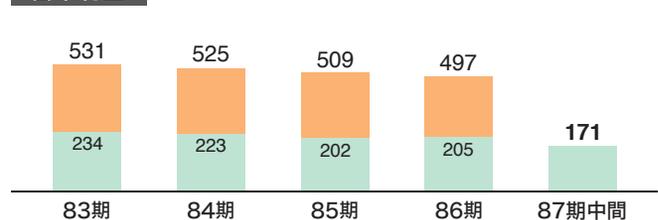
科目	期別	83期 2015年度	84期 2016年度	85期 2017年度	86期 2018年度	87期(中間) 2019年度
売上高	(中間)	2,028	2,035	2,072	2,069	2,095
	(期末)	4,147	4,167	4,236	4,249	(予) 4,250
営業利益	(中間)	234	223	202	205	171
	(期末)	531	525	509	497	(予) 390
経常利益	(中間)	264	252	241	244	207
	(期末)	577	581	612	573	(予) 445
親会社株主に帰属する 当期純利益	(中間)	167	181	104	171	136
	(期末)	368	407	374	387	(予) 280
純資産		6,031	6,557	7,049	7,469	7,562
総資産		7,698	8,486	8,850	9,414	9,425

87期の期末は予想値

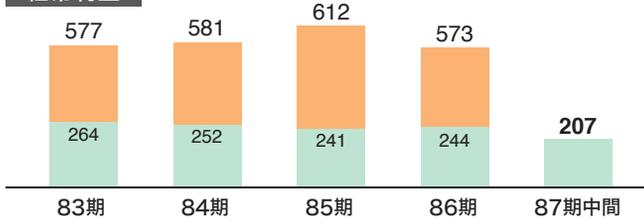
売上高



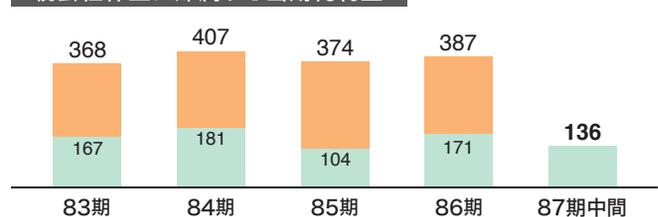
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



■ 中間 ■ 期末

詳細は当社ホームページをご覧ください。 [日本テレビ IR](#)

[検索](#)

番組

上半期 6年連続三冠王達成!!

2019年度上半期も、全日帯、ゴールデン帯、プライム帯でトップとなり、6年連続で上半期の世帯視聴率三冠王を獲得しました。レギュラーバラエティー番組の上半期・民放プライム帯ベスト10のうち、「世界の果てまでイッテQ!」をはじめ8番組を日本テレビが占めました。またドラマでは、それぞれの曜日におけるコンセプトを活かして高視聴率を獲得しました。特に日曜ドラマ「あなたの番です」は、25年ぶりに2クールドラマに挑戦、Huluとの連動企画を含めて、コンテンツの価値最大化

を実現しました。今年1月からは、社内指標を「世帯視聴率」から「個人視聴率」に移行し、「より多くの人に、より良い番組を見てもらう」意識が高まっています。これまでの「タイムテーブルの新化と深化」に加えて、2019年10月改編のテーマとして、新たに「テレビをオフからオンにさせる」を掲げました。生活者が積極的に視聴したくなるコンテンツを生み出し、引き続き、日本テレビの視聴習慣促進を行っていきます。



「世界の果てまでイッテQ!」
毎週日曜日 19:58~20:54放送



「あなたの番です」
2019年4月14日~9月8日 毎週日曜日 22:30~23:25

金曜ゴールデン帯の強化!



「クイズ!あなたは小学5年生より賢いの?」
毎週金曜日 19:00~19:56放送

アメリカで誕生し、50か国以上で放送された世界で一番人気のクイズ番組が日本向けにパワーアップ。小学5年生でも解ける問題に正解するだけで賞金が獲得できるクイズショーです! MCは劇団ひとりと佐藤隆太。親子揃って楽しめます!



「沸騰ワード10」
毎週金曜日 19:56~20:54放送

今、一番元気な情報バラエティー。「ガイドブックに載らない沸騰島」「取り憑かれた芸能人」「伝説の家政婦志麻さん」など、シリーズ企画が次々ヒット。バナナマンMCの業界リサーチバラエティーが、放送時間枠を変え、新たな企画を投入。さらに視聴者を引きつけます!

報道

平成から令和へ 時代が変わる節目の日を伝えきる



4月1日の新元号発表、そして5月1日の即位の日。新時代の幕開けに関わる出来事を、総力をあげて伝えました。新元号発表では早朝の官邸の動きから宮内庁への新元号

伝達、そして菅官房長官による「令和」の発表まで、特番であますところなく放送しました。

5月1日の即位の日は、代替わりを象徴するシーンとして、天皇陛下の赤坂御所から皇居への移動にこだわりました。事前準備には現場下見だけでなく、実際に車を走らせるリハーサルも。NNN各局の応援も仰ぎ、「絶好の撮影ポイント」では2日前から24時間態勢でスタンバイ。移動する天皇皇后両陛下のご様子、即位当日のお二人の表情をリアルに伝え続けました。この日の「news every.」第3部は視聴率で他社を圧倒し、報道機関としての社会的責任を果たしました。

スポーツ

ラグビーワールドカップ2019 日本大会

今年9月20日から11月2日まで開催された「ラグビーワールドカップ2019 日本大会」のオフィシャルブロードキャスターとして、地上波で19試合の生中継を、BS日テレ4K&BS日テレでも8試合の中継を行いました。日本テレビは、2007年大会からラグビーワールドカップの中継に取り組み、今回が4大会目の放送となりました。視聴率においては、開幕戦の「日本×ロシア」で18.3%、「日本×サモア」で32.8%を記録。さらに、日本代表の目標であった史上初のベスト8進出がかかった「日本×スコットランド」では、平均39.2%、瞬間最高53.7%という高視聴率を獲得しました。初の日本開催となった今大会、ジェイミー・ジョセフヘッドコーチ率いる日本代表の躍進はもとより、世界一流の技やラグビーというスポーツの素晴らしさ、そして全国各地の盛り上がりを多くの視聴者の皆様に届けることができました。



Hulu

多彩なコンテンツで好調に会員数増

4月期・7月期の2クール連続で放送され、その衝撃的な内容から社会現象にもなったドラマ「あなたの番です」は、Huluでもオリジナルストーリー全20話の配信を展開、好評を博しました。音楽ジャンルでは、矢沢永吉のフェスの一部をリアルタイム配信。スポーツジャンルでは、何といってもラグビーワールドカップ! 国際映像に加えて、複数視点から観戦できる「マルチアングル」映像を配信、盛り上げに寄与しました。



「あなたの番です」
Huluで全話独占配信中

技術 画像認識AIが大活躍※1

画像認識AI技術は、駅伝中継の制作支援、配信で活用しています。さらに、選挙特番での被写体自動認識や、フィールド競技で選手の走行速度、累積走行距離をAIで測定しました。「経済産業大臣賞(日本映画テレビ技術大賞)」など、社外表彰を4件受賞しました。



※1 共同開発:株式会社東芝、東芝デジタルソリューションズ株式会社

新規事業

MR事業「mixta」続々展開中!



日本テレビが誇る最先端の拡張現実技術でMR事業を展開する「mixta」。7月の音楽番組「THE MUSIC DAY 2019～時代～」では、スマホアプリを通じて、番組と連動してタレントが現実空間に現れる企画を実施。CM連動企画ではマネタイズも実現。夏のイベント「超汐留パラダイス!」では、「HiGH&LOW」ブースでAR撮影ユニットを設置し、ファンの方々が大行列となる好評ぶりでした。

デジタル動画広告
売り上げ拡大中!

「TVer」のアプリダウンロード数が2,000万を突破(2019年7月時点)。ドラマやバラエティーなどのキャッチアップサービスは順調に認知率が高まっています。それに伴うデジタル動画広告収入も、上半期の売り上げは前年比200%以上と大きく伸びています。下半期も「ラグビーワールドカップ2019 日本大会」などのコンテンツ配信を推進し、ますます収益を拡大させていきます。

花火IoT事業 ▶ 楽曲と完全シンクロしたプログラミング花火イベントを実施!



「WE ♥ NAMIE HANABI SHOW supported by セブン-イレブン」

表紙について

本誌表紙は花火イベント時の様子。4万人の観客を集め大盛況!

安室奈美恵さんの引退から1年となる9月16日。沖縄・宜野湾市で安室さんの楽曲と花火を完全シンクロさせた花火大会「WE ♥ NAMIE HANABI SHOW supported by セブン-イレブン」が行われ、4万人の観客を集めました。新規事業として立ち上げた「花火IoT事業」。テレビで培った細やかな演出力を活かし、楽曲に合わせた花火と巨大LEDに映したアーティスト映像、そこにレーザー・噴水などを用いた新しいLIVEエンターテインメント空間を創出しました。専用アプリを開発し、チケットの電子化とARコンテンツなどのデジタルマネタイズを実現しました。またプログラミング教育の必修化をみすえ、こどもたちによるプログラミング花火を行うなど、伝統文化とデジタル技術を組み合わせた新しいイベントの形を作り上げていきます。今後も多くのアーティストとのコラボを実現していきます。

VTuber事業

新エンターテインメントビジネス! VTuberで展開

VTuber事業ではVTuber化した人気アニメキャラクターが、YouTubeだけではなくテレビ番組やネット配信番組、大型音楽イベントに出演。ファンクラブの開設やオリジナルイベントの開催、企業タイアップなどを通じ、バーチャルタレントとして、活動の場を広げています。「もっとバーチャルな世界を世に広めたい」をコンセプトに、VTuberシーン全体も盛り上げていきます。

日テレHR

日本テレビの資産を活かした人材開発事業

日本テレビの人材育成事業である「日テレHR」では、今年度上半期、独自のVTRを活用した研修を20社超から受注。また動画オンラインサロン「日テレアカデミア」も活況で、テレビ局の資産を活用した人材開発事業として活動中です。人事コンサルティング事業では、組織改革コンサルティングを行っています。学校向けの事業では、教材提供にとどまらず、

学校運営支援サービスを展開しています。



研修用のVTR撮影の様子
報道局 小栗泉
編成局 森圭介アナウンサー

ティップネス

地域におけるフィットネスクラブの新たな価値を創造!



「喫茶ランドリー 宮崎台」(ティップネス宮崎台1階)2019年5月オープン

フィットネスクラブを運営する株式会社ティップネスは、「人とのつながり」がもたらす健康増進に着目した新規事業として、ティップネス宮崎台1階に「喫茶ランドリー」をオープンしました。また24時間ジム「FASTGYM24」は10店舗増え、100店舗を超えました。(2019年9月末時点106店舗)総合型店舗では、新プログラムの導入やリニューアルを順次実施し、会員様の満足度向上を図っています。

BS日テレ

2019年9月1日から4K放送をスタート!

BS日テレは2019年9月1日に4K放送を開始しました。初日には“4K放送スタートをかけた超魔術”を生放送。ハラハラドキドキの展開の中、無事に正午よりスタートできました。当日は高橋大輔主演のアイスショー「氷艶」やBOØWYの解散ライブの4Kリマスター版などを放送し、大きな反響がありました。以降はプロ野球巨人戦やラグビーワールドカップ、報道番組の「深層NEWS」などを4Kで放送し、高画質の映像で豊かな時間を提供していきます。



BS日テレ4K放送スタートの瞬間

海外事業

タイでも視聴率トップ 加速する番組世界進出

「¥マネーの虎」海外版が現在35以上の国と地域に展開されているように、日本テレビが誇る人気番組のコンセプトやノウハウは続々と輸出されています。海外番組販売収入は右肩上がりとなっており、海外パートナーとの共同番組開発も積極的に推進しています。例えばドイツの大手配給会社と組んだスタジオゲームショー「BLOCK OUT」は、タイの大手地上波チャンネル7で2019年7月から放送を開始し、視聴率トップを維持するなど、番組の世界進出は、様々な形態を取りながら加速しています。



タイで放送中の「BLOCK OUT」

イベント アール・ヌーヴォーの展覧会!! 冬には超大型鉄道展!



「みんなのミュシャ」

ミュシャの代表作はもちろん、作品から影響を受けた現代の日本の漫画家やアーティストの作品まで、およそ250点を展示。時代を超えたミュシャワールドを実現。



「特別展 天空ノ鉄道物語」

全国の鉄道系博物館でも通常は見られない蔵出しのレアな展示品が、六本木ヒルズの52階全フロアにずらりと並びます。

アール・ヌーヴォーを代表する画家アルフォンス・ミュシャを取り上げた美術展「みんなのミュシャ」は、大盛況だった東京展に続いて各地を巡回します。また「源氏物語×フィギュアスケート」という新しい形のアイスショー「氷艶2019」を、演出家・宮本亜門/主演・高橋大輔でお送りし、4万5千人の方にご来場いただきました。さらに矢沢永吉の初の音楽フェスティバル「E.YAZAWA SPECIAL EVENT

ONE NIGHT SHOW」も大喝采のうちに幕を下ろしました。そして昨年、全国で展開した「世界一受けたい授業 THE LIVE 恐竜に会える夏!」の第二弾を開催。パワーアップした新たな恐竜たちが今年也大暴れしました。12月には、かつてない大型の鉄道展「特別展 天空ノ鉄道物語」をお届けします。JR7社や東京メトロ、東京都交通局など各社の協力を得て開催する本展は、六本木ヒルズ森タワーの52階全フロア2,500㎡を舞台にして、大人から子どもまで幅広くお楽しみいただける内容になっています。

映画 超大作「キングダム」がメガヒット! 下半期も期待作が目白押し!

ゴールデンウィーク公開の大ヒットコミック原作の超大作映画「キングダム」が興行収入57億円を超えるメガヒットを記録しました。また「名探偵コナン 紺青の拳(こんじょうのフィスト)」は7年連続シリーズ最高興行収入記録を更新しました(93.1億円)。その他上半期では6月公開のアクション映画「ザ・ファブル」(17.6億円)、7月公開の「Diner ダイナー」(12.4億円)、実写と3Dアニメーションで2週連続の夏休みの公開となった山崎貴監督「アルキメデスの大戦」(19億円)「ドラゴンクエスト ユア・ストーリー」(14億円)などスマッシュヒットを複数作輩出しました。下半期の公開作品として、テレビドラマ連動映画「ブラック校則」、お正月映画「ルパン三世 THE FIRST」と「僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ヒーローズ:ライジング」のアニメ2作、映画シリーズ最終章となる「カイジ ファイナルゲーム」、実写映画大作の「AI崩壊」など充実したラインアップを取り揃えています。(数字は2019年9月末時点の興行成績)



「キングダム」

2019年4月19日公開
©原泰久/集英社
©2019映画「キングダム」製作委員会



「AI崩壊」

2020年1月31日公開予定
©2019映画「AI崩壊」製作委員会

芸術×力

ボストン美術館展

Art Power: From Pharaohs to Daimyōs. Masterworks from the Museum of Fine Arts, Boston

株主様特別ご招待のご案内

07L
ART

チカラは、美を求めた

日本テレビでは、2020年4月16日(木)から7月5日(日)まで、東京都美術館(東京:上野公園)にて「ボストン美術館展『芸術×力』」を開催します。古今東西の権力者たちは、その力を示し、維持するために芸術の力を利用してきました。威厳に満ちた肖像画は権力を強め、精緻に描写された物語はその力の正統性を示します。また、美しい工芸品は彼らの宮廷を彩り、ときに外交の場で活用されてきました。時の一流の画家や職人につくらせた芸術品は、今も見る人々を圧倒する荘厳な輝きを放っています。また、力をもつ人々は、自らも芸術をたしなんだほか、パトロンとして優れた芸術家を支援しました。その惜しみない支援によって、数多くのすばらしい芸術作品が生み出されたのです。

本展では、エジプト、ヨーロッパ、インド、中国、日本などさまざまな地域で生み出されたおよそ60点の作品をご紹介します。私たちが鑑賞する芸術作品が本来担っていた役割に焦点を当て、力とともにあった芸術の歴史を振り返ります。株主の皆様には、本展を是非ご覧頂きたく、ご案内申し上げます。

裏面が観覧券になっています。切り離してお使いください。

芸術×力

ボストン美術館展

2020 4.16(木) → 7.5(日)



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

東京-上野公園 TOKYO Ueno-Park

Art & Power: From Pharaohs to Daimyōs. Masterworks from the Museum of Fine Arts, Boston

This exhibition was organized by the Museum of Fine Arts, Boston.

主催=東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、ボストン美術館、日本テレビ放送網、BS日テレ、読売新聞社/後援=アメリカ大使館/協賛=大日本印刷/協力=日本航空、日本通運、JRA東日本、CS日テレ、ラジオ日本、文化放送、TOKYO MX、テレビ神奈川/企画協力=NTVヨーロッパ

Photograph © Museum of Fine Arts, Boston 増山雪斎「孔雀図」(部分) 江戸時代・享和元年(1801) Fenolosa-Wald Collection



